

富岡八幡宮

富岡八幡宮 〒135-0047 東京都江東区富岡1-20-3 [TEL] 03-3642-1315

富岡八幡宮の概要

●由緒

菅原道真の子孫とされる京都の僧侶・長盛上人（ちょうせいしょうにん）は、先祖代々八幡神像を家宝として大事に所持していました。するとある日、夢の中に八幡様が現れ、当時永代島と呼ばれていた現在の地に白羽の矢が立つ場所があること、そしてそこに八幡様を祀ることを告げられます。長盛上人はお告げに従い、永代島に八幡神像を納める祠（ほこら）を建てるとともに、付近の砂州一帯を埋め立てました。これが富岡八幡宮の始まりといわれています。

●歴史

1627年（寛永4年）の富岡八幡宮創建当時、永代島は全く未開の地でした。しかし、徳川将軍家が源氏の氏神である八幡大神をことさらに尊崇したことから、江戸幕府の手厚い保護を受け、富岡八幡宮と門前町は急速に発展。ついには「江戸最大の八幡様」といわれるまでに なりました。

富岡八幡宮は江戸勸進相撲発祥の地としても知られています。江戸時代の相撲興業はトラブルが多く、しばしば禁止令が出ていましたが、1684年（貞享元年）、寺社建築などの資金を募るために行われる勸進相撲が江戸幕府から富岡八幡宮に許可されます。それ以降、約100年間にわたり境内で本場所が行われ、その間に現在の大相撲へとつながる定期興行制や番付制が確立されたのです。



横綱力士碑

1867年（慶応3年）の大政奉還により250数年に及ぶ江戸時代に終止符が打たれると、江戸は東京と改められ、江戸城が皇居となりました。その際に主要な神社12社「准勅祭社（じゅんちよくさいしゃ）」が定められましたが、富岡八幡宮もその一つです。明治天皇は准勅祭社に勅使を派遣して幣帛（へいはく。神前の供物のこと）を捧げ、東京の鎮護と万民の平安を祈願しました。

1867年（慶応3年）の大政奉還により250数年に及ぶ江戸時代に終止符が打たれると、江戸は東京と改められ、江戸城が皇居となりました。その際に主要な神社12社「准勅祭社（じゅんちよくさいしゃ）」が定められましたが、富岡八幡宮もその一つです。明治天皇は准勅祭社に勅使を派遣して幣帛（へいはく。神前の供物のこと）を捧げ、東京の鎮護と万民の平安を祈願しました。

1867年（慶応3年）の大政奉還により250数年に及ぶ江戸時代に終止符が打たれると、江戸は東京と改められ、江戸城が皇居となりました。その際に主要な神社12社「准勅祭社（じゅんちよくさいしゃ）」が定められましたが、富岡八幡宮もその一つです。明治天皇は准勅祭社に勅使を派遣して幣帛（へいはく。神前の供物のこと）を捧げ、東京の鎮護と万民の平安を祈願しました。

●年間行事

年間行事の中でも、毎年8月15日頃に行われる例大祭、通称「深川八幡祭り」は代表的な行事です。赤坂・日枝神社の山王祭、神田明神の神田祭とともに「江戸三大祭り」の一つに数えられます。

3年に1度の本祭りでは、神社の御鳳輦（ごほうれん。神様が乗る神輿のひとつ）が渡御（とぎよ。神輿が進むこと）し、大小合わせて120数基の町神輿が担がれます。そのうちの大神輿50数基が勢ぞろいして連合渡御する様は、



御本殿

深川八幡祭りならではの壮観な光景です。以前は、元禄時代に豪商として名をはせた紀伊国屋文左衛門奉納の総金張りの宮神輿が3基ありましたが、関東大震災で惜しくも焼失してしまいます。しかし、1991年（平成3年）に日本一の黄金神輿となる御本社神輿が奉納され、70年の時を経て宮神輿が復活しました。

その他の主な年間行事は以下の通りです。

①初詣

正月3が日には、毎年約20万人の参拝者が訪れます。

②節分

境内で節分祭豆まき式が開催され、ゲストとして招かれた芸能人や力士が豆まきを行います。豆まきの後は、ハワイ旅行などの豪華賞品が当たるお楽しみのおくじ抽選会があります。「富くじ」とは江戸時代の宝くじで、2～3日に1度は江戸のどこかで行われるほど盛んでした。

③酉の市

11月の酉の日に行われる酉の市。この日は正面参道に家内安全・商売繁盛の熊手を売る露店が立ち並び、「みあかし」と呼ばれる提灯が境内に掲げられます。

地域の様子と富岡八幡宮の存在感

江戸初期の深川は漁師町でした。しかし、富岡八幡宮の創建により、急速に都市化が進みます。深川には漁師だけでなく材木店などの職人が数多く暮らし、隅田川沿いの佐賀町方面は水路が発達した倉庫街として、物流の一大拠点となりました。

深川はまさに「江戸の暮らしを支える町」だったのです。

権禰宜の佐藤さん



2基の宮神輿

深川には「江戸庶民の行楽地」という側面もありました。江戸市街から南東にあたる深川は「辰巳」と呼ばれ、男装をまねた辰巳芸者が活躍。幕府非公認でありながら、深川の花街は吉原に次ぐ規模を誇りました。前述した、

富岡八幡宮境内で行われる勸進相撲は、歌舞伎と並ぶ娯楽の花形でした。

現在の富岡八幡宮周辺は、湾岸エリアを中心に飛躍的に発展しています。2020年開催の東京五輪や2016年の築地市場の豊洲移転により、その勢いはさらに加速するでしょう。しかし、富岡八幡宮

は変わらず「深川の八幡様」として親しまれ、地元住民の結束を強める存在であり続けるに違いありません。

保安協会による電気安全への貢献

当協会は富岡八幡宮における電気設備の定期点検を行っています。神様が祀られている神聖な場所ということもあり、祭りなどの特別な行事の時に限らず、普段でも万が一のことがあれば大変な事態になります。そのため、平日頃から点検を行うことが何よりも重要です。

東日本大震災の際、富岡八幡宮は帰宅困難者に境内を解放して備蓄品を提供しました。「富岡八幡宮は今後も地域社会に貢献し、地元住民の皆さまに安心を与える場所でありたいと願っています」と権禰宜の佐藤さんは語ります。「そのためには、電気を含めた神社の設備が故障しないことが大前提ですが、関東電気保安協会さんのサポート体制が万全なので、安心してサポートをお願いします」。当協会は、富岡八幡宮の期待に今後も応えていきたいと思っています。



永代通りより望む